

Dr. ジーアの My カルテ

全農家畜衛生研究所
クリニックセンター



HPAIウイルス伝播の可能性

高病原性鳥インフルエンザ（以下、HPAI）はA型インフルエンザウイルス感染による疾病です。その伝染力と致死率の高さから、ひとたび蔓延すれば養鶏産業に甚大な影響を与えます。今回は野生動物によるHPAIウイルスの伝播の可能性についてご紹介します。

●日本国内・農場への侵入経路

日本国内への鳥インフルエンザウイルスの侵入経路として、最も重要と考えられているのは野鳥です。ウイルスに感染した野鳥が農場周辺に飛来し、野生動物等何らかの手段によってウイルスが家きん舎内に侵入した可能性が考えられます。しかし、その経路についてはいまだ不明な点が多く残されています。

●家きん舎内に侵入する野生動物

鳥取大学の調査では、クマネズミの行動調査を行ったところ、鶏舎内外の出入り、鶏舎内の餌樋やケージ内への侵入が観察されました。また、鶏卵を運ぶパーコンベアの出入口付近では昼間スズメが飛来した

場所に夜間クマネズミが出没した事例もあり、野鳥とクマネズミとの間接的な接触がある事も分かっています。

更に、他の調査では鶏舎内へのイタチ、ネコ等多数の動物の侵入が確認されています。

実験データでは、家ねずみ（ハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミ）を用いたHPAI感染試験で、感染後数日間程度、家ねずみの口腔からウイルスが検出され、家ねずみがHPAIウイルスの感染源になる可能性が示唆されました。

●家きん舎への侵入防止対策

今後の対策として①農場内作業者の防疫対策だけではなく、②家き

ん舎への野生動物の侵入防止対策も不可欠です。

農場内、特に鶏舎内外をくまなく点検して、家きん舎の壁、天井の隙間や破損箇所を速やかに補修してください（写真1）。家きん舎周辺の野生動物の隠れ場所をなくすためにも、不要な資材を片づけ、草刈りを行うなどの整理整頓・清掃も重要です（写真2）。

中国をはじめとするアジア諸外国では2018年度も既にHPAIの発生が家きんで確認されています。そのため日本国内にウイルスが持ち込まれる可能性は依然として高い状況が続いています。

最新の海外及び国内での鳥インフルエンザ発生状況は農林水産省ホームページをご参照ください。

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/>

生産者・関係機関が高い防疫意識を持ち、HPAI発生を予防するための強固な防疫体制を整えましょう。

万が一、異常な鶏を発見した場合は直ちに管轄の家畜保健衛生所にご相談ください。日本の養鶏産業を守るためにも、早期発見・早期通報により、被害を最小限に食い止めましょう。

写真1.
ネズミが開けた鶏舎外壁の穴



写真2.
鶏舎周辺を除草し、野生動物の接近を防止した状態

